

東北・北海道地区

もうひとりのパートナー

妻が伴侶なら盲導犬も伴侶。言葉はなくても
しぐさで伝わる心と心。日々の道行きを共に。



大地震、津波を

原田宗雄 さん (73) / 福島県 / 仙

ネス (GR♂) ←ハーツ (LR♂)

原田さんはハーツを「神の子」と呼んでいた。指示に従って上手に仕事ができたとともに「神の子グッド」とほめる。利口な犬で、リードをつけなくても「ヒール」と言えば原田さんにぴったり寄り添って散歩ができた。

生まれつき弱視で、20歳で網膜剥離と診断された。このときは手術で治ったが、結婚し第1子誕生の半年後くらいから視力の異常が再発し、病名不明のまま39歳で光を失った。中学を卒業して料理人の修業に入り、ラーメン店を開いて1年半のことだった。失望と不安、家族を守れない苛立ちを抑える毎日。店の方は奥様の幸子さんが見よう見まねで続けたが、人に会うのが嫌で、一人で家の外に出ることもしない生活が20年以上も続いた。



▲津波の後、会津若松市で避難生活を送る原田さん夫妻とハーツ

ハーツで取り戻した“やる気”

ハーツが家族の一員になったのはそんなときだった。白杖訓練の相談で行った南相馬市の窓口で紹介され、仙台訓練センターに連絡をとった。犬の愛らしさも、主人の言うことに機敏に行動してくれるのも初体験。すべてがうれしく、どれをとっても驚きの毎日だった。ハーツがいれば怖いものなしでなんでも出来る……。還暦を超えていた原田さんが、忘れていた“やる気”を取り戻した。ハーツと二人で隣町の実家に行き、お墓参りをし、神社にまわり、ひとり外食をして、また電車で家に帰るなど、安心して行動できる生活をしていた時、東日本大震災に遭った。

共に生き抜いて～水没の車から三人脱出

ネスの“かりんとうウンチ”

ハーツの後に来てくれた2代目は。ゴールデンレトリバーのネスです。その時、私は心に誓いました。「ハーツは特別だった。神の子だったんだ。だから決してネスとハーツを比べたりしないようにしよう。そうしなければ、ネスに対して失礼だ」と。ところが、ネスはみごとにハーツとは違っていました。ふさふさの毛は素晴らしく、歩くたびに風をおこしてくれます。やんちゃで、家の中はぶっとんで歩く。お客さんが来れば戸の隙間から外にとび出す。ガラス戸の外の木の葉を取ろうと床を引っかく。私が呼んでも知らんぷり。

その上ネスには信じられないことがありました。朝起きると、小さいウンチ

を1個だけ、かりんとう1本かその半分くらいの固くなったのが、ネスのベッドの中に時々ありました。ある時、妻が足の手術の検査で朝から出かけたことがありました。夕方に帰り、妻は自分のテーブルに座るや大声をあげました。ちょうど足をのばしたところに、1本のウンチをしていたのです。

それではじめて、ネスの「私を見て！」の合図が、ちょっとだけのウンチだったことを知りました。ウンチをはじめたら全部したくなるはずなのに、固いウンチ



▲やっと落ち着きたいいわき市では近くにペットの足湯もある

をちょっとだけしていたネスのいじらしさに、私はノックアウトされました。今は心から首っただけでネスをかわいがっています。そしていつかは、ネスに愛されるユーザーになりたいと思っています。

病院に行こうとハーツと玄関を出た時「ぐらっ！」と揺れた。幸子さんがあわてて探しに飛び出して来て、地震がおさまるまでと三人で車に入った。そこへあの黒い大波が道路を越えて襲

いかかった。車が浮き上がって流され、エンジンルームから水が入ってくる。足元のハーツにシートに上がるよう言ったが上がりたくない。ハーツはシートには上がらないよう訓練されているのだ。「NO！」と言いながら尻を押してシートに上げる。次の引き波で車は後ろ向きに引っ張られ、敷地と国道の境にある水路に前向きに落ちてはさまれる形で止まった。

水は増えるドアは開かない。幸いステーションワゴン車で後ろのハッチバック

の扉は中から開けられた。が、ハーツは主人を離れようとしな

避難所生活でも心癒やされて

原発事故の避難で移った会津若松の避難所の夜はハーツのぬくもりに助けられた。その後の転居先でも同じ部屋で寝たが、小さな揺れでも感じるとハーツはじっとこちらを見ていた。やっと落ち着いた生活を取りもどした現在のいわき市までに6回の転居を繰り返したが、どこでも人気者だった。むしろハーツが人間関係をつないでくれたとも言える。原田さんは募金活動にも積極的に参加した。

妻の幸子さんは盲導犬の働きに“心の癒やし”を挙げる。失明して10年後、宗雄さんが「車庫を自分で建てる」と言い出した。家族で議論の末、幸子さんは夫が挑戦する気力を持ったことがうれしくてOKをだした。設計図は宗雄さんの頭の中、小学生の娘さんが材料の採寸、幸子さんは店の合間を見て手伝いとペンキ塗りの役割で着工し、なんと69日で面積22.11平方メートル、高さ3.5メートルの車庫を完成させた。やる気になればこんなすごいことも出来る人だ。——ただ、完成後ハーツが来るまでは元の宗雄さんに戻っていた。因みに車庫はあの津波にも流されずに耐えた。

2014年10月、そんなハーツにも引退の時が来た。10歳でパピーウォーカーさんの元へ帰り、17年4月天国へ旅立った。(取材)



▲ハーツと一緒に募金活動。小学生に人気

小鳥の鳴き声録音に夢中、パズーを離して大慌て

金山幸一さん (66) /宮城県 / 

パズー (MX ♂)

パズーと暮らして7年、あっという間に過ぎたような感じがす。共同訓練は2010年3月初め、仙台の訓練センターで行いました。訓練士さんから「頑張りましょう」と励まされ、私も「やるぞ」と心に誓って始めましたが、苦手な仙台市内での大きな交差点の道路横断では嫌気がさしてきたこともありました。訓練士さんは何度も何度も練習をしてくれましたが、私が住む町には大きな交差点はありませんので、戸惑うことばかり。交差点で自分の歩く方向を見失うなど失敗の連続でした。訓練士さんは手作りの交差点の模型を使って歩き方のイメージづくりをしてくれ、親身に教えてくれました。でも、何度か反発し、もう犬は要らない、このまま家に帰ろうと考えた事もありました。しかし、このまま家に帰ったとしても一人では出かけられないし、毎日の散歩も出来なくなると反省し、基本に戻って再度本気を出して取り組みました。なんとか訓練も終え、パズーと我が家に帰ることが出来ました。

家に戻ってからは、私は散歩が好きなので、毎日のように歩き、万歩計で1万歩を越えるときもあります。雨や風などの強い時は休み、それ以外は楽しく、のんびりと歩くようにしています。失敗もいろいろありました。春先の暖かな日、いつもと違って山道を歩いてみたくなり、小鳥の鳴き声を録音しようとICレコーダーを持って出かけました。目的地に着くとウグイスやかわ



いい小鳥たちの鳴き声。この音を取り逃がすまいと夢中になり、パズーのハーネスとリードを離してしまいました。そのことをすっかりと忘れてしまい、5分ぐらいして気づいた時にはパズーが足元にいません。「どうしよう、どうしよう」。真っ青になって家族にも電話し、探してもらいましたが見つかりません。もちろん仙台の訓練センターにも連絡し、家の近所の人にも探してもらいました。いくら「パズー」「パズー」と叫んでも戻ってきません。1時間ぐらいたってからでしょうか、鳥の声を録音していた近くの民家の人がパズーを連れて「このワンちゃん、あなたの犬ではないのか」と連れて来てくれました。胸をなでおろし何度も何度も頭を下げました。

うれしいこともたくさんありました。小学校や中学校、高校での盲導犬の勉強会や実演などに出かけたことが心に残っています。子供たちは盲導犬についてすごく関心を抱いたようでした。その後、街頭やスーパーなどの募金活動で会ったりすると、「パズー、これから頑張るって」と声をかけられることもありました。周囲の人に温かく見守っていただきながら、一人旅もできました。東京にも新幹線を利用して2度出かけましたし、ホテルへの泊りもパズーと一緒に。どこでも行ける自信、楽しさをパズーに教えてもらいました。

引退が近づくにつれ「別れるのか」と複雑な気持ちでしたが、今年5月17日にとうとうその日がやってきました。パズーにはこれからもすてきな日々を過ごしてもらいたいと願うばかりです。

◀散歩途中にポストでちょっと立ち止まって

ソニアと出会ってから知った～一人で外出する楽しさ

小川由香里さん (40) /福島県 / 

ソニア (LR ♀)

ソニアとの生活は、最初は不安や戸惑いもありましたが、少しずつ信頼関係も深まり、以前は一人で外に出ることもできなかった私が、今では毎日散歩に出かけています。家から出ると毎日いろんなことがあり、食事の時など自分から話す話題もあり、家族から「よく笑うようになった」「性格が明るくなった」などと言われ、うれしく思います。

ソニアに出会ってから、行きたい時に一人で散歩に出かけるよろこび、買い物に一人で出かけるよろこび、協会の募金活動などのイベントに参加して多くの人と触れ合うよろこびを知りました。一人で高速バスに乗って仙台に行き、他のユーザーさんと交流を持ったこともあります。「語り部の会」に参加させてもらっ



当日は、電車に乗り、駅からタクシーに乗って会場に行きました。初めて生で聞いた語り部はとても楽しかったです。帰り道も他のユーザーさんと歩いて駅まで行き、道中も楽しみました。今後は、今まで以上に積極的にいろいろなことにチャレンジして人生楽しんでいきます。

◀毎日いろんな体験があります

ソラの独り言「この幸せな時がずっと続くといいな」

佐藤佳代子さん (53) /福島県 / 

ソラ (LR ♀)

私の名前はソラ。盲導犬デビューして、福島・郡山市へやってきました。毎朝、私を相棒と言ってくれる彼女と一緒に朝のゴミ出しから散歩へ。

♪そ～らは青空～、二人は～♪「ソラと私にぴったりの歌ね」なんて言ってるけど、私青くない、黒。ちゃんと見て！ あ、そうか見えないうんだっけ。しょうがないからこの件は目をつぶる。いや、目をつぶったら危ない。よく見て安全歩行に集中、集中。

この辺はお散歩の犬は多いけれど、私のような「お仕事犬」はいないのか、行く先々で質問攻めです。時には、「お洋服も自分で着るんですか」なんて、「お姉さん、そんなわけないでしょ」と思う事や、「僕、盲導犬知ってる。目の悪い人の犬だから、この犬は耳が聴こえないんだよね」と言われて、びっくり仰天のことも。



て、抱っこもしてくれて最高の日だったなあ。それから、毎年来るのを楽しみにしているの。

最近、皆さんから「ソラちゃん、お口の周りが白くなったね」と言われる。獣医師の酒井先生も「ソラ、がんばれよ、長生きするんだぞ」と言ってくれる。そんな時、心の中で「先生もね」ってつぶやくの。あまり気にせず、私は自分の仕事をきっちりやるだけ。そして体をなでられながら「ありがとう、ソラがいるから助かるよ」と言葉をかけられると、いつの間にか眠ってしまうの。この幸せな時がずっと続くといいな。

◀お散歩途中に、彼女が歌ってくれます

道の駅のできごと～「障害者差別解消法を知らないの？」

上杉健一さん (68) /岩手県 / 

オリン (LR ♂)

岩手県視覚障害者一関支部の年中行事である歩行訓練が昨年6月26日、宮城県にある湖沼周辺で行われた。ここは春が桜、夏はハス、秋は紅葉、冬は渡り鳥の飛来というように四季折々の風情を醸し、市民の憩いの場になっている。沼の周辺には遊歩道が整備され、対岸に渡る大きな橋も架かっていた。私たちは午前10時過ぎに駐車場に着き、1時間半ぐらいかけて遊歩道をめぐり初夏の風と戯れた。

昼食後、当地の物産を買いつめようと道の駅に立ち寄り、みんなで入ろうとした。介助者と一緒にの人がほとんどだったが、私はパートナーのオリンと妻とで店に入ったが、すぐに近くにいた男性から声をかけられた。「駄目駄目、犬は駄目」。大きな声で阻止され、妻は籠に入れようとした品物を戻し、店の外に出た。不愉快な思いが込み



尋ねると、「そんな法律は知らない。行政からも何にも指示はない」という返事。法律のことを説明していたら、店内から女性店員さんがやってきて、妻に店には盲導犬支援の募金箱を置いてあると話した。それを聞いた駅長は手のひらを返すように、「どうぞ、どうぞ」と店内へ案内してくれた。

前日にスマイルワン仙台のワークショップで障害者差別解消法の講演を聞いたばかりだった。道の駅があった市の福祉課に電話で「この法律について市民に広報しているか」と聞くと、まだしていないとのこと。道の駅での出来事を話したら「大変申し訳ない。こちらからも指導します」という返答だった。

◀スマイルワン仙台での盲導犬新ユニット出発式に参加

シャンソン練習で声が合わず、フローラがため息

佐藤夏江さん(66)/宮城県/

フローラ( ♀) ←ワルツ( ♀) ←ステラ( ♀)

孫が生まれる少し前にユーザーになったので、盲導犬生活はもう19年になりましょうか。3頭目のフローラは2014年3月末に我が家へ来ました。無邪気で人懐っこくて、家でもベタッとくっついてきます。「ピンポン」にすぐく反応して、「誰が来たのか」という顔をするんです。

いま住んでいる家は、東日本大震災の後にできた公営住宅です。津波にのまれた自宅のあった場所ですが、辺りは区画整理され、道路も整備中ですし、工事も多くて危ないので、誰かと一緒にでないと歩けません。でも、週2回、人工透析の病院へ行くのですが、その周囲は変わっていませんので、フローラと一緒に買い物したり、散歩をしたりしています。震災のあの日は偶然、高台にある病院にいて難を逃れましたが、夫と一緒に避難所、そして岩手県の娘の家、気仙沼の借家と転々とし、昨年9月にやっと公

営住宅に落ち着きました。

さかのぼりますと、盲導犬についてはラジオを聞いたのがきっかけで、「持とうかな」と思いました。どこでもらえるのだろうと考えて、当てずっぽうに電話の番号案内に「ニッポン盲導犬協会ってありますか」って尋ねたら、なんと神奈川にありました。で、神奈川で共同訓練することになり、そこから盲導犬生活が始まったのです。

一人で自由に外出したいという願望がずっとありましたので、盲導犬が来てくれて本当に速く歩けるし、とにかくうれしかったです。気仙沼あたりでは盲導犬の珍しさもあってみんな近づいてきたり触ったりします。街を歩いていると子供たちから「この前、学校に来た時に見たよ」なんて声かけられたり、「チューリップを植えたよ」と持ってきてくれたりと、思いがけない喜びもあります。盲導犬がいるからこそいろいろな人と出会うことができましたし、今もフローラと一緒に小学校の総合学習の時間に招かれたりします。

*

震災前から始めたシャンソンの練習は、月2回、現在も続けています。気仙沼からバスで3時間近くかけて仙台まで行き、1時間半のレッスンを受けます。その後、みなでおしゃべりして帰るのが楽しみです。コンサートも年2回くらいやっていて、歌詞を覚えるのが大変です。教室では「フーちゃん」はおとなしく寝ているんですが、みんなの歌の呼吸が合っていないと、フーちゃんが足をばたつかせて「ふーっ」とため息をつくんです。ある時は先生が「みんなが上手になったから、今日はフーちゃん静かだったね」と言って大笑いでした。

フローラが10歳になると私は70歳。家の中でじっとしていたら、体力の衰えも進むでしょう。だから、もう1頭、元気に歩いていきたいですね。



▲雪道を行くフローラにほほ笑む
◀さっそうと歩く。フローラと一緒にだと足取りも軽い

初詣で子供たちの人気者～リンゴと紡ぐ物語

船迫ひかるさん(22)/福島県/

リンゴ( ♀)

小学生の頃、「ワン!ぱくっ子サマースクール」に参加した経験から、盲導犬の存在は知っていましたが、犬との生活はリンゴが初めて。食事時間が近づくと猛烈にアピールするリンゴ。「お手」をしたり、足をそろえてきれいに「フセ」をしたりするリンゴ。ペットショップの子犬に興奮するリンゴ。女の子らしく、ブラッシングやシャンプーできれいにしてあげると、おなかを見せて喜ぶリンゴ。私にとって、日々すべてが新しい発見でした。

思い出もたくさん作りました。初詣では子どもたちの人気者。「さわっちゃダメなんだよね?」「がんばってね」と温かいゝお年玉。までもらいました。2歳の誕生日を家族みんなでお祝い

したり、弟たちと公園でシャボン玉遊びをした時は、飛んでいくシャボン玉を追いかけて楽しんだりもしたっけ。

朝は職場まで片道40分、リンゴと一緒に出勤。それまでは白杖で1時間以上、天気が悪い時には家族に送ってもらっていてもいた私が、今では「遠くに住んでいる友人に会いに行きたい」「連休は旅行に行けるといいな」とまで思えるようになった。

リンゴ、私のところへ来てくれて本当にありがとう。これからもたくさん思い出を作ろうね。

◀ペットショップでガラスの向こうの子犬をおもちゃと勘違いしたことも



新人ユーザーなので、まず基本をしっかり練習したい

工藤侑弥さん(31)/山形県/

フォルテ( ♂)

今年7月、人生で初めての盲導犬との暮らしが始まりました。フォルテとの出会いです。共同訓練ではフォルテと歩いたり、食事中に足元で待機させたりするのは意外と順調にきました。しかし、日中の訓練も終わり居室に戻ってフォルテのハーネスを外して二人きりになると、部屋の中でどう過ごすのかが分かりませんでした。そんな戸惑いも今ではなくなり、だいぶ慣れてきました。とにかく毛布が大好きなようで、散歩から帰るとすぐにフォルテ用の毛布にダウン。「出かけるよ」と声をかけても「もう少しここにいたい」みたいなこともあります。

フォローアップでは私たちの歩く姿に、訓練士さんから及第点をもらえました。小さな曲がり角も見つけてくれ、「よく見つ

けたね」と褒められました。その後、動物病院へ訓練も兼ねて挨拶にいきました。他の動物もいて最初は落ち着かない様子でしたが、しばらくしてダウンしてうまく待機できました。歩き始めの足の出し方やハーネスを持った時の自分のポジションなど、基本をしっかり練習していきたいと思います。

音楽を聴くのが趣味なので興味のあるコンサートがあったらフォルテと一緒に足を延ばしたいです。カラオケも好きだからいつかフォルテと行こうと考えています。

◀歩くときも基本をしっかり意識して



8年間のブランクをものともせず、2頭目のフィーナと歩く

伊藤洋美さん(55)/福島県/

フィーナ( ♀) ←ケーラ( ♀)

2016年秋、キンモクセイの香りに包まれて8年ぶりに盲導犬と歩きました。仙台訓練センターでの共同訓練。50代半ばの私にとってはかなり厳しい6週間でした。8年のブランクの間に体重が10キロ増え体力も低下、それにユーザーとしての生半可な知識が訓練士さんの言葉を邪魔したからです。

実は2008年秋、家庭の事情などがあり、1頭目のケーラと別れざるを得ませんでした。それからは一人暮らしで週2回の早朝ランニングと健康体操、晩酌にゴマ焼酎のお湯割り3杯が日課でした。ガイドヘルパーさんとの外出、白杖を使っでの近所での買い物と、盲導犬の必要もなく過ごしていました。ある日、1泊2日の盲導犬説明会のお知らせが耳に入り、最近の盲

導犬はどうかと興味津々で説明会に行ったところ、終了時には「ぜひ使わせてください」と言っていました。盲導犬の作業能力の高さに改めて感嘆し、訓練士さんの「伊藤さんならできます」という熱っぽい口調に迷いが吹き飛びました。

昨年秋にやってきたフィーナは今日も鈴の音を響かせて私と歩きます。かつては自己流も交ざっていましたが、今度は基本を大切に心掛けています。事情があって離ればなれに暮らす夫、息子と娘も新しい家族のフィーナに大喜びです。

◀基本を守って、フィーナとカッコいいユニットを目指します



何か催促する時は「犬なで声」、すっかり家族に溶け込む

永沢 淳さん (61) / 岩手県 / 

ユーゴ ( ♂)

ユーゴが我が家に来たのは2014年11月下旬、秋も深まり冬がそこまで来ているという寒い時期でした。家の中に入ると、真っ先にこたつを見つけ、その中に潜り込み、お気に入りの場所にしていまいました。私の仕事の関係で、日中は自宅で待機し、家族と一緒に暮らしています。そのため私や妻が帰宅すると盛んに甘えてきます。歯磨き用のコットンが大好きで、箱の中から自分で取りだして遊び、すっかりぼろぼろにしていまいました。なので、届かない冷蔵庫の上に置くようにしましたが、よほど気に入ったのでしょう、そちらを見上げては取って欲しいと促すではありませんか。時々、根負けしてしまいます。家族が多いせいでしょうか、要求がある時には声をだして催促します。我が家では、それを「犬なで声」と呼んでいます。時折、息がタイミングよくため息のように聞こえたり、苦笑のように聞こえたり、とても表情が豊かです。フォローアップで訪れ



た指導員さんには甘えん坊と言われる始末です。

そんなユーゴですが、散歩の時はどんなに寒くても、あるいは雪の中でも一生懸命に歩いてくれます。家にたどり着くと、「あー寒かった」と言わんばかりに、ハーネスを付けたまま妻を探しては甘えています。

体験の時に、たまたまセンターにいたユーザーさんから「日中、家で留守番させるのでは、盲導犬としての役目を果たさないのではないか」と言われました。自分でも、盲導犬を自分の都合で散歩に使うなどというのは身勝手に、ユーゴにとっては迷惑なのではないかと思っていたので、悩みました。しかし、いざ家の周辺を散歩するとなると、ユーゴなりに一生懸命に道を探して歩く様子が伝わってきて、一緒に歩くことが楽しくなりました。初めは自分が誘導しなければという気持ちが先走り、迷ったりしましたが、ユーゴに任せようと思い切ったら楽な気持ちで歩けるようになりました。今は全く迷ったりはしません。ユーゴとの生活は楽しく、今では家族みんな、心から「ユーゴ、我が家に来てくれてありがとう」と言えます。

◀甘えん坊のユーゴはすっかり家族の一員

盲導犬ジャンヌとともに旅した「思い出」と「よろこび」

三上慎太郎さん (36) / 青森県 / 

ジャンヌ ( ♀)

私の住む青森県の津軽半島から、両親と一緒に、母の実家のある鹿児島・奄美大島へ旅をしました。祖母の介護のためです。成田空港から奄美大島行きの飛行機に乗ったのですが、そこで偶然の再会がありました。CA（キャビン・アテンダント）さんが「1年ほど前にもご利用くださいませんでしたか？　その時にお名刺を頂戴しました。確かジャンヌくん？　ちゃん？でしたっけ」と声をかけて下さったのです。盲導犬の名前まで覚えていて下さったのは本当にうれしかったです。さらに「会社の方針で補助犬のために窓側席1席を確保してありますが、料金は発生しません」とのことでした。

奄美大島に到着すると、そこには初めて本物の盲導犬を見たという方たちがいっぱい。「ストレートGO、GOOD」で歩き始めると、「すごい、英語分かるんだ」「賢い」などと言われ、ジャンヌは意気揚々と歩いていました。

祖母は介護施設から帰って食事を済ませたあと、何とジャンヌを枕代わりにしたり並んで横になったりと受け入れてくれ、本当にうれしい限りでした。

また別の日、海上タクシーでしか行くことのできない、加計呂麻島に行く際には、同乗した女性が「波のある時には乗り移るのが大変だけど、船長がピッタリ着けてくれたからね」と優

しく声をかけて下さいました。船長さんも、犬がビックリしないようにと操縦して下さいました。お土産屋さんでは「前も来てくれませんでしたか？　ほらシール貼ってますよ」と覚えていて下さり、そして「また来てくださいね」と優しく声をかけていただきました。

島の人たちの優しさに触れ、喜びの多い滞在になりました。



▲奄美大島の瀬戸内町は絶滅の危機にあるクロマグロを養殖しています

外出意欲がわき、念願の“ひとりカラオケ、もかなう

鈴木祐花さん (27) / 福島県 / 

エナ ( ♀)

エナとユニットを組んで1年が過ぎました。盲導犬を持つ前と後ではいろいろな変化がありました。私はそれまで白杖で歩いていました。一人で行ける場所と言えば、何度も練習を重ねて慣れている職場と最寄り駅まででした。それ以外は家族やガイドヘルパーさんと一緒に出かけていました。信号待ちをしている人や歩道に止まっているトラックに気づかずぶつかってしまったり、雪が積もってしまうと点字ブロックが隠れてしまい苦労したりと、通勤だけでヘトヘトになっていました。

そのような中、行動範囲を広げたいと思い、2015年9月に盲導犬貸与の申し込みをして、昨年9月から共同訓練を受けました。訓練では、センターからバスに乗り、仙台駅周辺にあるイタリアン料理の店まで行くという課題がありました。仙台駅までは順調に行きましたが、そこからは周りの人に援助依頼をしながら行かなければなりませんでした。援



助依頼が苦手な私ですが、勇気を出して「すいませーん」と叫んでもなかなか気づいてもらえません。なんとか3人の方に手引きをしてもらって目的地にたどり着くことができました。初めて行く場所であっても、エナと力を合わせて、周りの人の力も借りてたどり着くことができるのだなと思い、大きな自信につながりました。

そして、10月1日に認定を受け、ユニットとしてデビューしました。エナと一緒に毎日緊張しながら歩いていた通勤も楽しく歩けるようになりました。エナは障害物回避が得意で、私が何を避けたのか気づかないくらいスムーズに歩きます。どんどん新しい場所に行ってみようと思いがわきました。念願だった“ひとりカラオケ、に行ったり、通勤帰りに買い物をしたりもしています。エナは尻尾をゆらゆらさせながら楽しそうに歩いてくれるので、外出が楽しくなりました。

今後は、好きなアーティストのライブに出かけたり、大阪の友人に会いに行ったりしてみたいと思っています。

◀エナはカラオケにだって付き合ってくれる

“第2の人生、も悪くない

三瓶岩夫さん (61) / 山形県 / 

ダツフィー ( ♂) ←ダルク ( ♂)

私が失明したのは今から11年前。当時の私は無類の車好き。通勤はもちろん、どこへ旅をするにも車でした。そんな私が車を運転できない現実。視力だけでなく、手足をも失った感覚に襲われました。それでも自分を奮い立たせて白杖の訓練を受けたのですが、はって歩いているようなもどかしさが募るばかり。そんな時、いつかテレビで見た盲導犬のドラマ「クイール」を思い出し、盲導犬ユーザーを目指すようになりました。

そして失明から3年目。ついに私は盲導犬ユーザーに。当初は、散歩以外では妻が同行することが多かったのですが、次第に相棒のダッフィーと二人で出かける回数が増え、妻の負担も少なくなりました。また、盲学校で習い始めた点字の読解が長編小説も読めるほどに上達したからと先生に言われ、春からの授業では、高校生時代に少しかじったアコースティック・ギターに再挑戦しています。

2016年に還暦を迎え「もし失明していなかったら、第2の人生は『ハーレー』に乗ってツーリングを楽しんでいたのかな」と考えることもあります。残念ながら現実にはそれはかないませんが、盲導犬ユーザーになり、老若男女を問わず、人と出会う機会が格段に増えました。これは白杖歩行の頃にはとても考えられないことでした。



▲気分はボブ・ディランか福山雅治か。毎日のように弾いて、ダッフィーが見つめる

「目は見えないけれど第2の人生もまんざら悪くない」、そう考える今日この頃です。今後、何頭の相棒とユニットを組めるかはわかりません。しかし訓練士さんから「三瓶さん、もうそろそろ」と言われるまで、盲導犬ライフを楽しみ続けたいと思っています。

忘れてしまった笑顔を取り戻した日。ハッピーにバンザイ！

藤山美枝子さん(66)/宮城県/仙

ハッピー (LR ♀)

ある日突然何も見えなくなり、それから笑顔を忘れてしまった。盲導犬との訓練生活に入っても、「藤山さん顔が怖い。笑って」と言われた。顔の筋肉が硬くなっていて笑顔が思うように出てこなかった。笑おうと思うと余計に顔がこわばった。

ハッピーとの暮らしが始まったある日のこと、病院帰りに道を歩いていると自動ドアの開く音がして、「アレツ」と思ったら「いらっしやいませ」という声。この匂い、クロワッサンだあ。思わず「こんにちは、コーヒーとクロワッサンをください」と言ってしまった。実はここ、訓練士さんと初めて待ち合わせしたところで、ハッピーがクロワッサンのおあずけをくったお店だ。思わず「ふふっ」と笑ってしまった。クロワッサンとコー

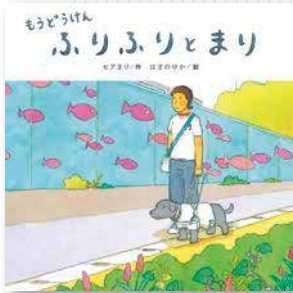
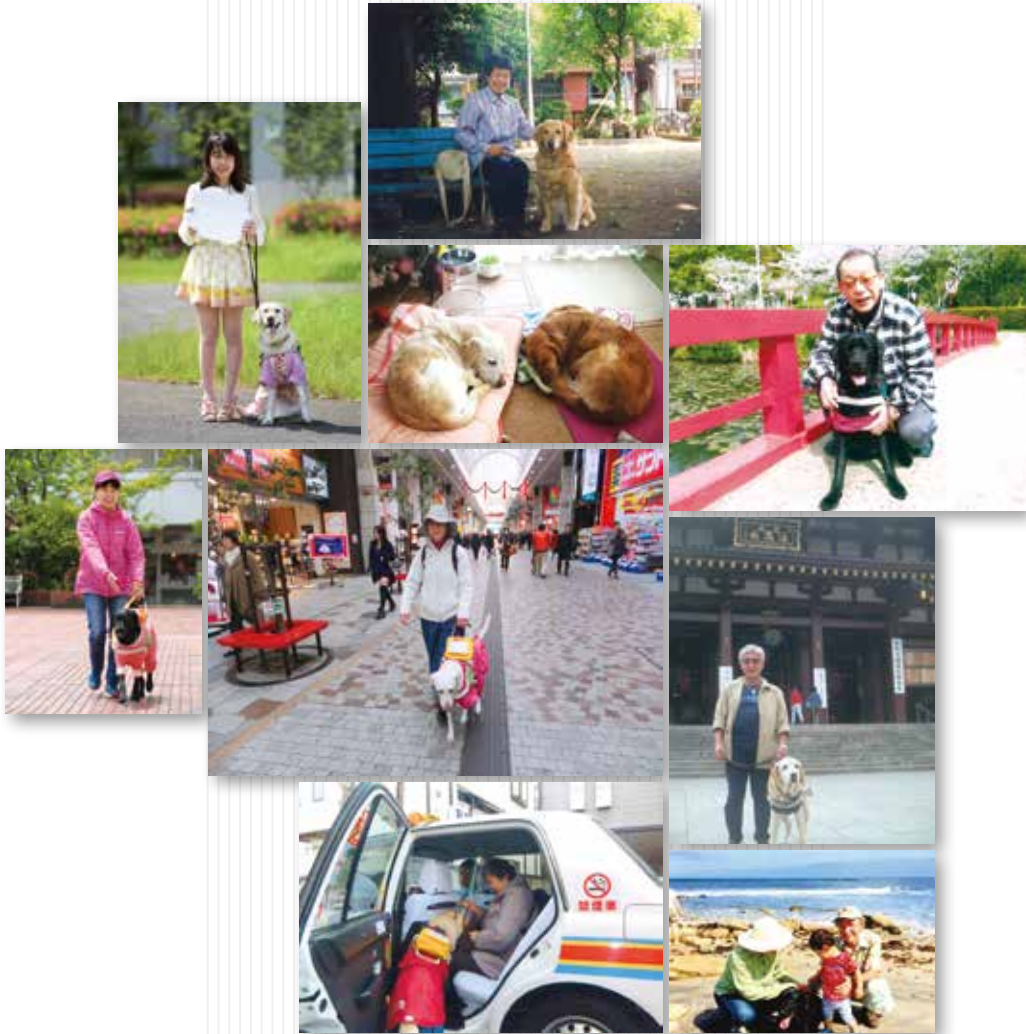


ヒー、これが熱いんだ。ああ、また電車1時間後になるなあと
思いながら、また「ふふっ」で笑顔になる。

今はハッピーと一緒になら、どこにでも行ける。分からなければ聞けばいいと開き直って出かける。ルールも知らずに野球を見に行ったり、習字、傾聴ボランティア、サウンドテーブルテニス、箱根駅伝の追っかけなど毎日出かけている。

この間、はじめて藤山さんの笑顔がいいねって言われた。夫とレオ（柴犬）に感謝、ハッピーにバンザイ。

◀声をかけてくれたクロワッサンの
お店にも感謝です



左上・『Precious Seasons～トロンボーン・ソロ・アルバムⅡ』
鈴木加奈子

左下・『もうどうけん ふりふりとまり』
セアまり（浅野麻里）作、はまのゆか絵、幻冬舎

右・『アンソニー、きみがいるから』
櫻井ようこ著、ポプラ社